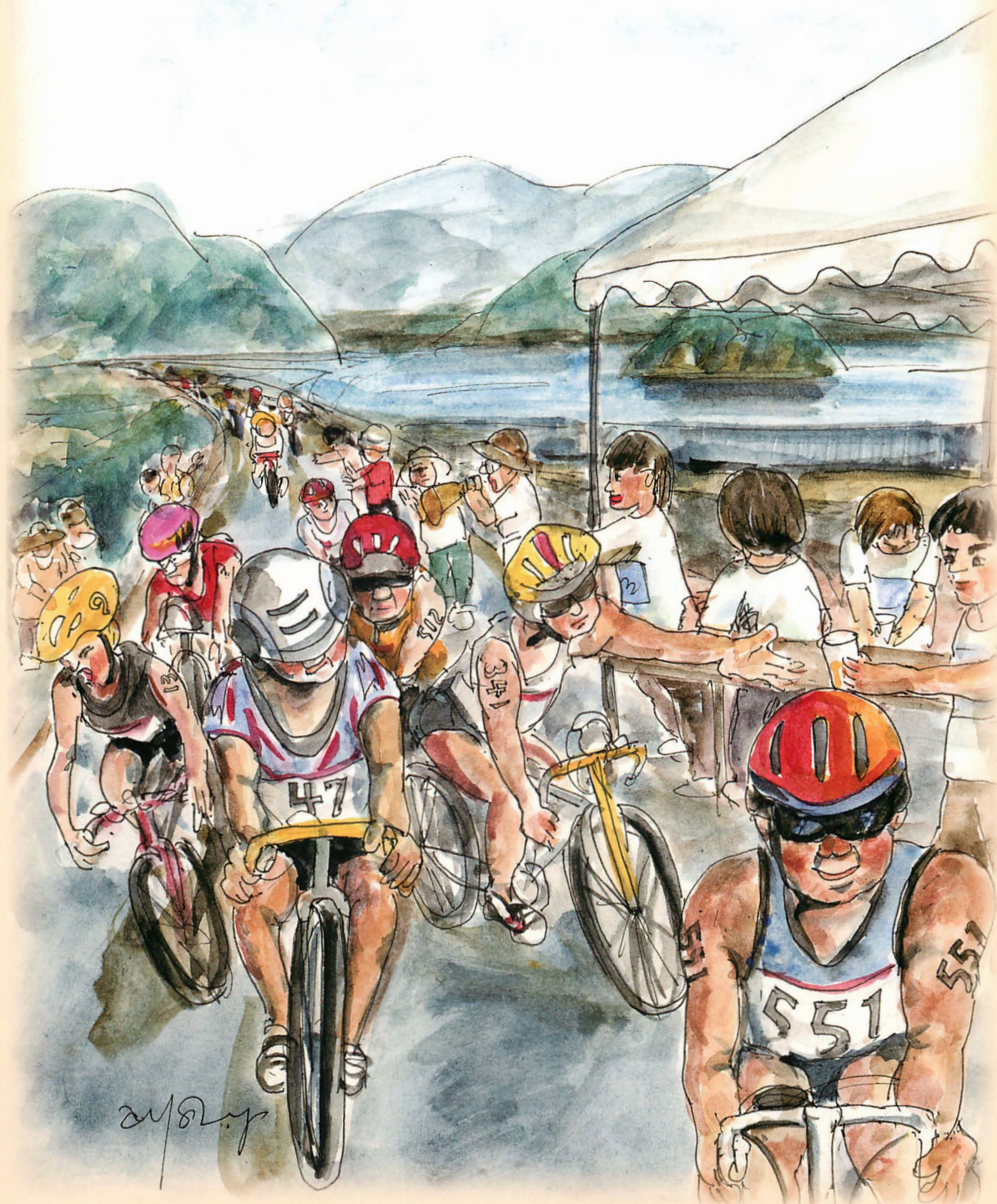


レ
舞
タ
4

まちづくり
ネットワーキングえひめ

たうん

VOL. 86
2005.10



アングル スポーツで楽しい街づくり

愛媛FC ゼネラルマネジャー兼専務取締役／権名津 朗 ……1

特集 『スポーツがつなく地域と人』

地域クラブのスタイルを生かして

四国中央市／石川 幸雄 ……2

民間業者が運営する総合体育館

四国中央市／大久保繁昭 ……4

しおみクラブの設立と活動

松山市／能田 雅雄 ……6

スポーツ文化の創造

西予市／宮本 和朗 ……8

県境から「泥んこの笑顔」

愛南町／田中 俊二 ……10

研究員レポート①

トライアスロン中島大会とまちが歩んだ20年

鶴野 大作 研究員 ……12

論談一まちづくりー

総合型地域スポーツクラブは未来を拓く

愛媛大学／堺 賢治 ……14

愛媛スポーツ新時代 四国アイランドリーグ～愛媛マンドリンパイレーツ～

……16

キラリ光るまち

一俵入魂 百勝の会

～あなたにもできる「一●入魂」で四国を元気に～

高知県一俵入魂百勝の会／川村 一成 ……18

若者とまちづくり

第6回 大学生が調べたまちの姿①

伊予市／若松 進一 ……20

トークナウ

太鼓の不思議な力

久万高原町／三好 泉美 ……22

愛媛県民一年生が思うこと

宇和島市／江里 亜紀 ……23

MY TOWN うおっちゃんぐ 歩キ目デス&足テラス

郵便局を探そう

伊予市／岡崎 直司 ……24

風おこしのちかい

遺すべきもの、伝えるべきこと

松山市／橋詰 飛香 ……26

研究員レポート②

「語り100選」のすすめ

井石 憲雄 主任研究員 ……28

媛のくにフラッシュ

特集

「スポーツがつなく地域と人」

地域密着を掲げるJリーグは、産業や観光を創出するだけでなく、性別、年齢、思想や肩書きなどを越えたコミュニケーションを産んだ。そして地域に誇りを持たせるとともに「スポーツは文化である」という概念を我々に開放してくれた。

総合型地域スポーツクラブは、「誰もが楽しむ」というスポーツが本来持つ機能により生活の快適さや充実をもたらしてくれただけでなく、スポーツを通じた地域コミュニケーションの新しい方法を示してくれている。

今地域を中心とし芽生えつつあるスポーツ文化は人と人、地域と人をつないでいる。そして地域や人により、スポーツ文化はつながれていく。

(編集子 鶴野)

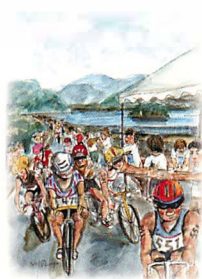
表紙の言葉

中島町(トライアスロン)

中島町のトライアスロン、今年で二十回目を迎える。私はテレビ観戦ファンである。それは第二回目の大会に参加した選手のことからです。

同時期に入院中、車椅子に乗った好青年をよく見かけたのがその選手だった。一年後リハビリで努力して鉄人になっていた。片足義足でゴールしたときは、テレビに向かって拍手した。今年は知人が参加していた。中島と強い結束のボランティアに見守られて。

柳原あや子



スポーツで楽しい街づくり



(株)愛媛FC
専務取締役兼ゼネラルマネージャー



EHIME FC

権名津 朗



■世界と戦えるプロチームを作ろう

愛媛には、豊かな自然と日本最古の道後温泉がある。そして学校を中心として野球が盛んなことが全国でも有名だ。サッカーと野球が中心になって住民が住んでいて豊かで楽しいほかの街より住みやすいと感じさせる街を作っていきたい。

世界と戦えるサッカーチームを作っていく過程が元氣な街づくりにつながります。

戦後六十年。全国いたるところに学校主体のチームと、スポーツ少年団のチームができ選手も指導者も頑張ってきました。みんなの憧れである日本代表はアマチュアで実力も世界からずっとかけ離れていました。しかし九十三年に地域と行政と企業が協力してサッカーのプロリーグができ、プロチームが出来ると実力もついてきて不思議に世界との距離も縮まってきました。日本人が再び世界からいい意味で注目され始め、三大会連続でワールドカップに出場できるまでになりました。Jリーグが発足するまでは信じられませんでした。この街にもプロチームが育つ

ていけば元氣で生きがいがある誇りを持つ街になるはず。

■コミュニティの核・共通の話題を作ろう

未来十年ごとに目標を置いてスポーツでコミュニケーション社会を作っていくと始めた愛媛FC。家族団欒で、隣の家族と近所の人と地域で作っていくチームと選手。相手は全国の他地域と世界各国。強いチームが出来れば「隣の子今度ドイツのワールドカップ出るんだって」という会話が家族単位や地域でできる。また、「昨日、愛媛FCはあの弱いフライブルグにトヨタカップサッカークラブ世界一決定戦で負けたんだって」こんな悲しい会話が飛び交う。

みんなが参加して夢を乗せるチームが街に豊かさや誇りと幸せを運んでくる!!

近所づきあいの復活は難しい。戦後は何もなかったから一直線に経済成長のみを目標に生きたばかりだった。近所が何していてもうちのお父さんが会社で昇進することが家族全員の目標のようだった。でもここ十年、何かおかしいことに気づ

きはじめた。経済のみ追求してはいけな、隣人と仲良く生活できなければ生る価値がない。家族の会話が必要だ。解決の方法をスポーツに委ねる。スポーツはみんなを明るく幸せにする。

子供や大人たちが会話できるツールとしての愛媛FCでありたい。会話できることが殺伐とした社会から暖かいゆとりのある社会が実現できる。冷めてしらけて凶暴で短絡的になる性格をなくしたい。豊かな地方の生活を送るためにも「世界の物差」となるスポーツチームを作りましょう。今あるものはすばらしい。しかしもう一歩、豊かな人生を送るためにも共通話題で世界と戦えるものがが必要です。

愛媛FCを中心とするスポーツクラブは、みんなの夢と希望を実現できる手段です。



地域とともに歩む愛媛FC

スポーツが町にもたらす効果は経済だけではない。街に誇りと活気を与え、さらに多くの人を呼び集めることができる(ワシントン都市圏スポーツ同盟口バートウィーニー事務局長)

地域クラブのスタイルを生かして

— 川之江 TRACK & FIELD クラブの挑戦 —



四国中央市

四国中央市
川之江 TRACK&FIELD
(陸上競技) クラブ
代表 石川 幸雄

<http://kawano-e-tandf.web.infoseek.co.jp/>



四国中央市

川之江T&Fクラブとは

川之江TRACK&FIELD (陸上競技) クラブは、長年、陸上競技を続けてきた私が、「日本にもヨーロッパのような地域の陸上クラブがあったらいいな。」という思いをもとに個人で設立したクラブです。

クラブの設立は、二〇〇〇年四月で、現在の会員数は二百名余りです。会員は、幼児、小・中高校生、大学生、社会人で構成され、ヨーロッパのクラブのように子どもから大人までが参加できます。練習場所は、四国中央市の妻鳥小学校で、旧川之江市を中心に会員が集まっています。

川之江T&Fクラブ (略称) は、メンバーの年齢構成や目的、活動内容などの面で、一般的な陸上競技のクラブとは大きく異なっています。活動内容は多様で、陸上の各種目の他、球技やレクレーション、体力作り、昔の遊び等から各自が選択して、自己の目標をめざしたり、運動に親しんだりしています。

お母さんといっしょに運動する幼稚園児。ドッジボールや草野球を楽しむ小学生。大会をめざして専門的な練習に励む中学校の陸上部員。球技で気分転換を図る受験生。箱根駅伝や国体をめざす大学

生。若い頃を思い出しながら、子どもたちと汗を流すお父さん、お母さん。…様々な立場の人々が、年齢・地域・目的の壁を越えていっしょに練習できることが川之江T&Fクラブの最大の特徴です。

このような形態のクラブは、日本の陸上界では珍しい存在だと思います。さらに、最近は総合型地域スポーツクラブの一つとして愛媛県下でも注目されるようになってきました。



年齢や地域、目的の壁を越えてみんななかよく！

クラブ設立の思いと活動方針

なぜ、このようなクラブをつくったのか？
いくつかの動機や理由がありますが、最も大きかったのは、子どもたちの運動や遊びの現状に危機感を抱いたことです。
「子どもたちの遊びが変わった。」「昔はいろいろなことをして遊んだが、今の子は…」最近の子どもの遊びについて、このような声をよく耳にします。集団遊びの減少、室内でのゲームや習い事中心の生活、体力低下の傾向が指摘され、一方では過熱化する少年スポーツの姿があ

りました。私は競技者として、また小学校の教員として子どもたちを見つめていくうちに、子どもたちに適切なスポーツや運動の体験ができる場を提供し、少しでも理想的な指導ができるように試みたいと思いました。

その他、中学や高校の陸上部をサポートしたり、若い社会人や中高齢者であるマスターズの選手の受け皿を作ったりして、地域の陸上界に貢献したいという思いを抱いていました。



幼児・小学生・中学生・お母さん
それぞれの思いで走る！

そんな時によく頭に浮かんだのが、大学時代の講義で学んだ欧米のクラブ制度です。歴史的に見ると日本のスポーツは、学校体育中心に発展してきました。一方、欧米の子どもたちは、地域のクラブでスポーツをするそうです。「オリンピックをめざす選手も小さな子どもも同じグラウンドで練習する。」という話に私はとても魅力を感じたのです。

私は、自分の思いを実現できるのが、地域クラブのスタイルだと考えました。そして、日本では根付いていない地域の

陸上クラブを自分の手でつくってみようと思いました。

こうして設立したクラブは、欧米の本格的なクラブにはとても及びませんが、地域クラブのスタイルを生かしながら独自の活動を展開しています。その基本となる考え方は、次の五つの活動方針に表れています。

- 自由と自主性を尊重する。
- スポーツを通してなかなくなる。
- スポーツマンシップを大切にする。
- 子どもたちを長い目で見て育てる。
- 高い目標に挑戦する。(ジュニアの選手)

これらの方針を重視しながら、川之江T&Fクラブは、スポーツの原点を見つめ、理想を追求しています。

新しい旋風を！

最初は、十名ほどの子どもたちに声をかけて始めたこのクラブも、口コミでどんどん入会希望者が増え、募集の制限をするほどの大きな集団となりました。中学、高校の陸上部と連携し、選手育成にも力を入れています。運営側としては、多くの方々にクラブの趣旨が理解されたようで、大変うれしく思います。昨年から、子どもの保護者にも入会を勧め、社会人にとつての生涯スポーツの場とし

ても機能できるようにしています。

このようなクラブの練習風景を、通りがかった人を見ると、一瞬、何の集団だろうと思うそうです。様々な人々が、スポーツに親しんでいる光景は、地域の人々にも知られるようになってきました。また、今年の一月からは、ホームページを開設し、ネット上でも活動を紹介しています。

川之江T&Fクラブの存在や特徴ある活動は、スポーツについての主張だと考えています。決して十分な活動とは言えませんが、これからも地域クラブのスタイルを生かしながら、さらに理想をめざして挑戦していきたいと思っています。



目先の勝敗にとらわれず、子どもたちを長い目で見て育てる。球技も遊びも将来への土台作り。

今の子どもも陣取りの楽しさが分かる。お母さんも、思わず昔に返ってダッシュ！

民間業者が運営する総合体育館 アリーナ土居「土居総合体育館」



四国中央市

財団法人 やまじ風スポーツ財団
常務理事 大久保 繁昭

<http://www.arena-doi.jp/>



四国中央市

はじめに

アリーナ土居は、平成の大合併で誕生した四国中央市の西部、土居町のほぼ中央に位置しています。法皇山脈のふもと、二級河川関川に隣接した自然豊かな恵まれた環境です。

少子高齢化が進み、健康に関する関心が一段と高まる住民ニーズにこたえて、「健康で潤いのあるコミュニティ」をテーマに、スポーツを通じてふれあいと交流を深めることができる総合体育館です。旧土居町が建設した最後の公共施設として、平成十六年三月にオープンしました。法皇山脈から吹き下ろす日本三大局地風の一つである「やまじ風」をイメージした流線型の二枚の大きな屋根が特徴です。

体育館建設にあたっては、民間委託の管理運営を前提に、新しいシンボルとして永く親しまれる施設の建設を目指し、建築設計の段階から従来のコンペ方式ではなく、民間知識の導入を図るためプロポーザル方式（提案方式）を採用しました。

運営委託業務についても、プロポーザル方式による一般公募を行い、全国九社から運営計画の提案がありました。

審査にあたっては、愛媛大学教育学部スポーツ社会学の堺賢治教授をはじめ、

福祉、保健等の

各分野から十二

名の学識経験者

の方々に依頼し、

経常経費を削減

できる方向を視

野に入れながら、

健康増進のため

のプログラム作成、幅広い利用が見込め

る計画内容等について審査検討を頂き、

「コナミスポーツ株式会社」に決定されました。

民間業者による運営

当施設の管理運営は財団法人やまじ風スポーツ財団が四国中央市から指定管理者の指定を受けて行なっています。

財団では清掃業務、機器管理業務、運営業務の三部門に分割し、それぞれ民間の専門の業者に委託しています。また、業者間の連携をとるためにも毎週一回の定例ミーティングを行っています。

運営業務を委託しているコナミスポーツ株式会社は全国に二百七十三店舗（直営二百六、受託六十七施設）のフィットネス施設を運営する国内最大の業者です。数多くの施設で培ったノウハウや事例を水平展開し、高品質のプログラムの提供や徹底した人材育成により、サービス業として専門性の高いスタッフを常時配置



アリーナ土居

しています。また、BTSプログラム等、世界で注目を集めているプログラムをタイムリーに導入するなど、民間業者ならではの素早い対応がなされ、多くの利用者から大変喜ばれています。

運営委託契約金は変動性で、売上金から経常経費の一部(定額)を財団の収入とし、残りを委託金として支払う方式で、営業の成果が委託金増として表れる仕組みになっています。

利用の状況

七月末現在、千五百人の定期利用者(会員)が登録され、その利用はおおむね十五km程度の範囲の方が占めています。昨年九月、愛媛県の東部に大きな被害をもたらした台風の影響で登録会員の減少が始まりましたが、翌月からスタッフ全員で毎週休館日に地区を分担しチラシを配布するなどの努力を重ね、わずかばかりですが増加の傾向にあります。

また、運動に関心のない方にも来館していただき、関心を持っていただくための「趣味の作品」展等を定期的に開催しています。

登録会員(別表一)については、開館当初、中高齢者の利用が多くありましたが、最近では二十、三十代の利用者の加入が増加しています。

(別表1) 年齢別定期利用者数(H17.7月末現在)

区分	男性	女性	合計	割合(%)
スイミングスクール	81	77	158	10.49
10歳代	15	24	39	2.59
20歳代	151	178	329	21.85
30歳代	120	146	266	17.66
40歳代	99	112	211	14.01
50歳代	109	184	293	19.46
60歳代	84	85	169	11.22
70歳代	24	13	37	2.46
80歳代以上	2	2	4	0.26
合計	685	821	1,506	100

毎日、都度利用者を含め、約三百五十名が利用されており、開館を待ちかねて数十名の方が入館される状況です。

利用者からは、施設の充実はもちろん、多目的室やサブアリーナ、プールなどで開催される各種教室が一週間に四十教室を越えていることも大変好評を得ています。また、入退館時に笑顔で「いらっしゃいませ」「ありがとうございます。」ごく当たり前の声掛けや、運動後は温浴施設でリラックスできることも大きな魅力となっています。



露天風呂

今後の課題

利用者の目的は筋力強化、ダイエット、老化防止、健康増進、運動不足の解消とさまざまです。また、年齢層も幅広いため、すべての利用者ニーズに応えるために、利用者間のコミュニケーションを深めながら、加入者の定着や昼間利用者の増加・アリーナの活用等、一層の努力が必要だと考えております。

市や関係団体のご協力をいただきながら地域に愛され、地域の人々の健康に寄与する、四国中央市の看板といえる施設になるよう職員一同が一丸となって努めてまいります。

ぜひ一度来ていただき、気持ちのいい汗を流してください。お待ちしております。

(別表2) 平成16年度 年間平均時間別来館者数(フィットネス)



しおみクラブの設立と活動



松山市

しおみクラブ
クラブマネージャー
能田 雅雄

<http://home.e-catv.ne.jp/siomi/>



地域の概況

私たちの住む潮見地域は、松山市中心部から北へ約四kmに位置し、古くからの農村地帯ですが、近年の民間アパートの建設や各種スーパーの進出などで急激な都市化が進んでいます。小学校、中学校（二部他の小学校区を含む）、公民館がそれぞれひとつあり、夜間開放施設以外に公的なスポーツ施設はありません。

設立のきっかけ

学校五日制、週休二日制の実施や学級崩壊・家庭内暴力など、子どもを巡る環境が大きく変化しています。公民館活動や地域体育協会の活動を通じて私たちは、子どもたちの『受け皿づくり』の必要性について、地域の中で議論しました。中学校で廃止された部活の復活を求める声、地域でのスポーツの一貫教育やレベル向上を求める声、さらにスポーツ少年団などの指導者不足、一般の地域住民から手軽なスポーツを普及してほしい等々の要望が出されました。

特に私がなんとかしなければと感じたのは、スポーツ少年団で保護者の仕事が忙しく当番ができないために、子どもが退団してしまったこと、あるいは希望する部活動が廃止になったために、通学に

一時間も要する越境通学をしている生徒を目的にしましたことです。

これを集約した型で、平成十六年四月に総合型潮見地域スポーツクラブ『しおみクラブ』の設立に至りました。

クラブのモットーと特徴

私たちの地域にある松山市潮見公民館は『子どもとお年寄りには地域の宝』を基本的コンセプトとしています。そこで、当クラブは『スポーツ・文化活動を通じ、笑顔あふれる健康なまちづくり』を目標に掲げ、『地域に根差した活動と組織づくり』『間口は広く、敷居は低く』を組織活動の基本にしております。

このクラブは、公民館と地域体育協会が中軸になって設立した組織であり、地域の声をまとめやすい立場にあります。この点を大いに活用し、地域住民一万一千名の過半数の参加を目標としております。また、地域の伝統文化を学び、これを伝承する中で、地域で子どもを育み、高齢者を大切にするまちづくりの一助になることを目指しています。



松山市潮見公民館

主な活動内容

クラブの目玉商品は、日曜夜の「なんでも教室」です。地元の小・中学校の夜間開放施設を利用し、ニュースポーツを含め十数種類のスポーツを自由に楽しめるように開催しています。また、不定期な開催ですが「昔遊び・伝統文化教室」「男・親子料理教室」「小学生の泳げるようになるための水泳教室」等も好評です。そのほか、ふれあいキャンプ大会、ペタンク大会、グランドゴルフ大会、伝承あそび大会など各種のイベントも開催しています。

なお、活動の詳細はホームページをご覧ください。

小学生の泳げるようになるための水泳教室



昔遊び・もちつき大会では、まわりの子どもたちは興味津々！



今後の取り組み

設立して二年目、いろいろな問題を抱えながら手探りで進めているのが現状です。

焦らないで、長期展望に立って関係団体との関連付けや役割分担を整理しながら地域の要望に沿った取り組みをすることが大切であると考えます。そのために、アンケートなどを通じ活動の効果を検証し、次の企画に生かす必要があります。組織的には、経済的自立にむけてのプログラムづくりが課題となっており、活動を飛躍させるためには人材（指導者・スタッフ）の拡充が急務です。

事業内容としては「指定管理者制度」

「運動系介護予防の保険適用」など制度変更を見据えた方針とメニューづくりが必要です。NPO法人化を目指す準備も始めなければなりません。

設立準備中は、理念については確信を持ちつつも「本当にやれるのだろうか」との疑念が付きまといました。しかし、この一年余りの間の活動を通じて沢山の人の力によって、大きな

力が発揮できることを知りました。現在の社会体育や生涯教育の問題、子ども・高齢者を巡る問題解決のためには、どうしても総合型地域スポーツクラブを発展させる必要があります。人口一万人余の小さな町ですが、『笑顔あふれる、健康なまちづくり』という大きな夢に一步でも近づくため、頑張りたいと思います。いかに多くの人の力を引き出すか、これが私たちスタッフに問われていると思います。



笑顔あふれる、健康なまちづくりを目指す「しおみクラブ」スタッフ

スポーツ文化の創造



西予市

文化の里スポーツクラブ
クラブマネージャー
宮本 和朗



文化の里 スポーツクラブとの関わり

宇和町では、平成十二年四月、文部科学省が提唱する「総合型地域スポーツクラブ育成事業」の指定を受け、誰もがスポーツに参加でき、楽しめる環境づくりのため、クラブ育成に取り組むことになりました。

平成十三年当時、萩森氏（宇和町体育館にて嘱託勤務先輩）私等二人は、複数の種目団体に所属してスポーツを楽しんでいた仲間でありましたが、そのようなモデル事業を平成十二年から宇和町が受けていることは全く知りませんでした。

ただ、県の大会や講習会の受講等で講師から、「現在、総合型地域スポーツクラブは文科省の推進している事業で全国的に展開し、いずれ各市町村に一つクラブを立ち上げることに、愛媛県下では、宇和町が育成事業に手を挙げて準備中である。」と講義で初めて聞かされ驚きました。宇和町行政の担当者に聞いてみると、「どのように事業を推進するのか、計画検討中」との事でした。

①多様目②多様な価値観③多様な年齢層④多様な活動。総合型地域スポーツクラブの意味するものは、この四つの多様な価値観を含んだスポーツ環境を地域に

生み出すことを目指すものです。この意義は講習会等で学び、これから目指すクラブは多様な価値観を持たなければと思いました。

平成十四・十五年の二年間は、四川主事（県職員）が派遣され、宇和町の動きは早くなりました。行政主導でしたが、大変努力されて、多目的のスポーツ教室の開設、宇和体育館の土曜日午前中無料開放、イベントの開催、矢継ぎ早にクラブ創設に向けて活動がなされました。

萩森氏と私二人は、体育館での関わりから協力者として、お手伝いすることになりましたが、二人はすでに高齢者であつたので、補助的にできる範囲の支援をと考えていました。また、体育指導委員が増員となりましたので委員が主体になってクラブ立ち上げを行なうものと思っていました。ところが、クラブマネージャー養成講習会を受講したところから二人は、なぜか、客車から機関車に乗せ替えられてしまったのです。

文化の里 スポーツクラブの設立と経過

平成十五年三月、多くの支援者と新会員が出席の中、設立総会が開催されました。三年間の育成事業も終了して、新しく自立したクラブとしてスタートを切り

ました。しかし、運営の実態は、規約に基づいて選任された役員や運営委員会の機能が果たせず、西川事務局長も骨折りだったことでしょう。萩森氏は理事に、私は初代クラブマネジャーに選任されました。運営にあたり活動には規約上の制約がありましたが、日常の活動には表の部分では支障なくクラブが運営されていました。

平成十六年四月、東宇和郡四町と三瓶町が合併し、西予市が発足しました。そのため、新しい機構に伴う人事異動があり、西川氏は小学校教師に戻られ、小野主事が「総合型」担当となってクラブ新事務局長に就任しました。実に慌ただしい一年が経過しました。

今年五月、文化の里スポーツクラブ総会を開催、設立以来二年の経験を活かし、懸案となっていた規約も大幅に改正、役員も理事制度を廃止、運営委員を十三人に増員しました。プログラムの企画運営、役割分担、クラブ情報の共有化、自主財源の確立などの改革・改善をしました。会員構成は百四十六人（小・中・高校生三十二人、若・壮年層六十五人、高齢者五十人、内訳男性五十五人、女性九十二人）での再スタートです。

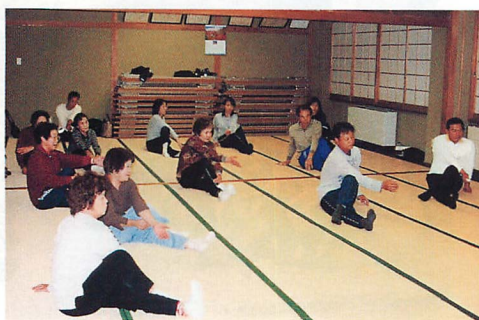
クラブの現状と今後の展望

土曜日のスポーツ教室は定着して、従来のニュースポーツ四種目と子どもの遊び広場、太極拳、運動公園では三種目を実施しています。また、健康教室（エアロビ）が新たに週一回開催されています。イベントも種目交流会等、月一回実施し、今後も予定しています。

各種目団体とも連携して混合イベントの実施、学校PTA、老人会の指導等新メニューも加えられました。



館内ではニュースポーツ、玄関前ではあそびの広場



宇和中央公民館和室で健康体操



ニュースポーツ終了後の会員交流バーベキュー大会

全国で「週一回スポーツする人」の割合は三十五％、愛媛県では二十七・六％。スポーツ振興計画では平成二十二年までに五十％となることを目指しています。

また政策目標達成のため中学校区に一つの「総合型地域スポーツクラブ」を育成することになっています。スポーツの実施状況等の資料をもとに地域の多様なニーズに応えるため、学校、地域社会、スポーツ団体との連携を推進して、豊かなスポーツライフの実現を目指し、生涯スポーツの推進を図らなければなりません。特にスポーツ参加意欲の消極的な住民の加入を促し、全体の地域力を高めたいと思っています。それらのビジョンのためには、クラブ会員一人一人のクラブへの帰属意識を高めることにより、クラブの大きな推進力が得られることでしょう。

県境から「泥んこの笑顔」



愛南町

篠山クラブ

会員 田中 俊二

<http://www.sasayama.gr.jp/>



「県境篠山騒動どろんこサッカー大会」は、平成三年に始まった地域おこしのイベントで、今年で十五回目を迎えた。メディアにも支援され、ユニークな話題として取り上げられるほどの人気イベントになった。その企画、運営しているのが、私の所属している「篠山（ささやま）クラブ」だ。

同クラブのメンバーは、現在四十人、農林業や会社員、役場職員などさまざま。ふるさとへの愛着や住み良い篠南（ささ

ふるさとへの愛情でスタート



どろんもみれになって
後先考えずに
走り回るのが快感でしょ。
それにみんながカメラを向けて
バシバシや撮ってくれるのも
気持ちいいわい。

な）地区づくりへの情熱の強さで固く結び付いている。特にメンバーのうち、十人は高知県に住む。というのも、篠山の南側に位置するのが愛南町正木地区であり、同地区と篠川を挟んで隣接するのが高知県宿毛市山北地区で、昭和五十年に「県境を超えて助け合い、互いの未来を考えよう」と同クラブを結成した。

同クラブは、愛媛県側から高知県側へ二百五十匹の鯉のぼり渡しで保育園児の健やかな成長を願ったり、太刀や鎌を用い鎧を着用して、四百年の歴史を持つ県の無形文化財である花取り踊りの伝承、盆踊り、秋祭りなど、地区内の全ての行事を熱心に取り組んできた。

平成三年に、「従来 of 行事を消化するだけではおもしろくない。皆で燃えるような感動するものをつくろう。自然に恵まれ県境の地域をアピールしよう。地区民全員が交流でき、活性化にも役立つ独自のイベントを。」と、地元有志や公民館主事が一ヶ月間、毎晩集まり飲み食いしやべり、いろいろなアイデアを模索した。前年に地元



看板も手づくり

の南宇和高校が全国サッカー大会で優勝したこともあって、町おこしに「どろんこサッカー」をイベントとした。

「篠山騒動」とあるのは、江戸時代（一六五七年頃）に予土国境の境界を争って伊達、山内藩が命運をかけた篠山騒動にちなんで付けた。当時はまさに「泥仕合」だったという。

走って、転んで、蹴って、飛び込んで、どろの大地にはぬくもりがあつて優しく包んでくれる。

コートづくりは、稲刈りを終えた田んぼに水を引き入れドロドロにするために、トラクターで田んぼを耕し、水が漏れないように「あぜ塗り」という作業が必要となる。この作業は泥を寄せ鍬で堤防のように作るわけだが、なかなかうまくいかない。そこで、農業のプロの登場となる。表彰盾は八十年以上の「櫓」を使い、一つ一つ磨き上げたこだわりの逸品。それぞれが職人技を発揮している。食事は、婦人会によるおにぎりや、地元で捕れた猪肉をふんだんに使ったうどんなど。運営資金は、寄付ばかりに頼らず山の草刈りを請負って調達。

このように地区全体が文字通り「篠山騒動」となる。

大会では、サッカー以外にも、大人も子ども楽しめる「どろんこフラッグス」がある。旗をめがけて、走って、転んで、滑って、飛び込んでよごれても、この日はかりはみんな笑顔がたえない。このころは、参加者全員を優しく包んでくれる。

どろんこフラッグス



うなぎつかみ

「篠南の里」づくり

イベント時期が近づくにつれ、「町のイベント」として定着してきたね。もうやめられんね。」と励ましがある反面、会員から「十年一区切りというしね」との弱々しい声も聞かれていた。

スタートからの会員は、五十才代後半となり大半が卒業し、加入してくる新会員に、何のために始まったのかを伝える方法が薄れていたことも、反省点の一つである。

しかし、イベントで得たつながりを、他の地区での接点で拡大し、各地区の公民館事業に役立てることができたことも事実。

また、小学校・中学校合わせて全校生徒五十八名という小規模校ではあるが、児童生徒もイベントの特産品販売に積極的に参加し、保護者と一緒になって地域に対する愛着と自信が目覚めたことが、篠山クラブの歩みにとって大きな励みとなった。

今、地域の個性を把握して、ここにかできない地域づくり、生活づくりを進めることが唱えられている（地元学）。このためにも、ぜひ「どろんこサッカー」に関わった地域外からの方から、地元住民の固定観念や思い込みを打ち破る新鮮なアイデアや助言をいただき、篠南地域ファンを定着化していきたい。



戦い終えて篠川で“どろ”落とし



外国人チームも参加！

トライアスロン 中島大会と まちが歩んだ20年

研究員 鵜野 大作



はじめに

昭和六十一年、温泉郡中島町(当時)で四国初のトライアスロン大会として「トライアスロン中島大会」が開催された。それから二十年…、一度も中止されることなく、今では全国屈指の回数を誇る長寿イベントとして広く認知されている。参加申込者数が毎年募集定員枠を超えるほど人気が高く、今ではすっかり夏の島の風物詩として定着している。

また、この大会は住民による手づくりのアットホームな大会として知られ、裏方として大会を支える約八百人のボランティアや宿泊施設の少なさをカバーするためのホームステイを島民が自ら行なっており、主催する行政と住民の協働によるまちづくりの先進的な事例としても興味深い。

トライアスロン中島大会の誕生

昭和五十九年六月に行なわれた「中島シンポジウム84」がきっかけとなり、翌年、商工会青年部のメンバーを中心に「村おこし実践大学」が誕生し、島の活性化を検討するまちおこしについての協議検討がなされた。そして中島町商工会青年部と地元の音楽愛好者により、姫ヶ浜ビーチの賑わいの創出と観光客を多く呼び込むことを目的とした「サンキュー・マイカントリー・コンサート」が中島町の姫ヶ浜ビーチで開催された。

しかしバンド演奏だけでは一部の愛好者に受けただけで観光客や宿泊客の心まではつかみきれなかった。演奏者も自己満足に終わり、そこに達成感はなかった。「もっと多くの観光客を呼び込みたい」という欲求が青年部でも議論を巻き起こし、他のイベントを模索し始めた。

そこへ、松山市在住の二人の青年が商

工会を訪れる。「トライアスロンを中島町でやりませんか？」当時二十四歳だった須山浩光さん(現・愛媛トライアスロン協会副会長)と浜岡隆文さん(現・鹿屋体育大学教授)である。

商工会事務局が数人の青年部メンバーを緊急に集め、このことを相談したところ、当時トライアスロンという競技を誰も知らなかったというのは、当時のエピソードである。ただ青年部のメンバーは「四国ではまだどこも開催していない。中島町が四国で初めてのトライアスロン大会になる。」という話題性や魅力によって心が揺り動かされ、やがて開催への道を選ぶこととなった。

中島町の豊かな発展と、町民の所得倍増・人口倍増等、島の活性化を願う彼らにとって「所得を上げれば、後継者は中島町に帰ってくる。」という信念のもと、中島町の知名度を上げる手段として四国初という言葉は、まさに彼らの願いそのものであった。

平坦ではない道のり

彼らにとって、トライアスロンが未知の競技であり、まして町外から参加を募ったスポーツイベントの開催に向けた準備は筆舌に尽しがたいものがあつた。

商工会と教育委員会の職員が当時、琵琶



第1回トライアスロン中島大会

琶湖で開催されていたトライアスロン大会を視察。大会マニュアルを譲り受け、独自に作成したものは厚さ十五センチほどにもなった。

バイクやランを行なうための一般道路の使用許可も簡単ではなく、所管警察署に出向き許可が下りるまで座り込み覚悟で交渉したという。

しかし、大会運営には必要不可欠のボランティアについては、若者の熱意溢れるエネルギーに中島町のあらゆる団体が同調し、すべての団体が総ぐるみで協力することとなった。

次の一手、焦る気持ち……

トライアスロン中島大会はこうして誕生し、やがて商工会青年部から行政へ引き継がれ、町を代表するイベントとなっていく。

一方、商工会青年部を中心とした村おこし実践大学では、地域のさらなる活性化に結びつくようなイベントを探るが、初めて手懸けたイベントがトライアスロン中島大会という大きなイベントであったために、小さなイベントではダメだという錯覚に陥ってしまった。

まちづくりへの意欲はあるが、なかなか形にならない焦りが口論となり、ひとりまたひとりとメンバーが離れてしまい、次なる一手は暗礁に乗り上げる結果となってしまった。

これからの課題は

参加選手の中には、宿泊先としてホームステイを希望する人もおり、トライアスロンをとおした交流が深まり家族ぐる



中島をPRする大会前日の交流

みの付き合いに発展するところもある。島を挙げて取り組むトライアスロン中島大会は、選手から概ね好評を得ている。また、平成三年の台風十九号災害や昨年の台風災害などには選手から義援金も届くなど、選手の中島に対する第二の古里への熱い想いが伝わってくる。

しかしながら、平成十七年一月に中島町は松山市・北条市と合併し新松山市としてスタートしており、町村合併による行政と各種団体のイベント観の相違、ボランティアの高齢化、トライアスロン大会によって飛躍的に上がった中島町という知名度をまちに還元する方法は……イベントを継続するための後継者は……。などと課題となる不安要素も多い。

トライアスロン中島大会は地域の活性化を目的に始まったイベントで、中島の知名度やイメージアップと共に住民の郷土意識の高揚が図られたが、そこに住み働き豊かな生活が送れる地域としての再生を図るための島民の模索は続く。

総合型 地域スポーツクラブは 未来を拓く



愛媛大学教育学部
教授 堀 賢治

はじめに

今、日本は危機を迎えています。一九九〇年代に始まったといわれる終身雇用制や年功序列制に代表される日本型システムの崩壊とともに、アメリカ型の競争社会になりつつあります。このような流れの中、高齢者は健康問題や年金問題を抱え、自分を支える地域がなくなりつつあるため将来が不安になりお金を使えません。その結果、消費が伸びず、なかなか経済が回復しない状況です。また、子どもたちに目を向けると、地域共同体の崩壊がもたらしたといわれる学級崩壊や不登校などの教育問題が深刻化しています。この閉塞感を打破する糸口として総合型地域スポーツクラブ（以下、総合型クラブ）が挙げられます。

総合型クラブとは

総合型クラブとは文部科学省が二〇〇〇年「スポーツ振興基本計画」を策定し、成人の週一回以上のスポーツ実施率を35%からヨーロッパ先進国なみに50%に上げるためにドイツのようなスポーツクラブを作ろうとする試みです。その結果、二〇一〇年までに市

町村に一つ以上の総合型クラブを三千箇所作ろうとしています。

総合型クラブのキーワードとして、第一は、三つの多様性があります。多世代が共に参加するクラブ、様々な種目があるクラブ、異なる競技レベルがあるクラブです。第二は、有るものと有るものを「つなぐ」ことです。体育指導委員、スポーツ指導員、レクリエーション指導員など指導者をつなぐこと、小学校、中学校、高校など学校をつなぐこと、などがあります。第三は自主運営です。行政がやっていたものを、自分たちが行うことです。

子どもの健全育成のため

総合型クラブの目指すものとして子どもの健全育成があります。体育の時間の減少、体力・運動能力の低下、スポーツをする子としない子の二極化などに加えて、一番の問題点は子どもたちの人間関係能力やリーダーシップ能力の低下があります。遊びの三つの間（空間・時間・仲間）の喪失によって異年齢の遊び集団がなくなり、このことがリーダーシップ能力を低下させています。私の研究によると、遊びの中のリーダーシップ能力の高い子どもた

ちは、学校生活の中でもリーダーシップを発揮しています。都市で起こっている学級崩壊などの教育問題を解決するためにも、遊び集団の復活は大切です。総合型クラブはスポーツによって異年齢の遊び集団を作ることができます。

高齢者の健康づくりのため

高齢者の医療費の増加は経済的危機をもたらします。松山市を例にとると、高齢者の占める割合は、二〇〇〇



年15・8%あったものが、二〇二〇年には25・3%になります。高齢者一人当たりの医療費は松山市九十四万円、愛媛県七十九万円です。団塊の世代が高齢者の多くを占める二〇二〇年になれば、松山市は医療費でパンクしてしまいます。これを十五万円少なくて愛媛県並にすれば百九十四億円安くなります。一九六〇年代ドイツが実施したように、スポーツ施設を多く作り、スポーツ人口を増加させることは、スポーツによって健康づくりをし、医療費を削減する機能を果たすものと思われます。

コミュニティづくりのため

子どもの健全育成も高齢者の健康づくりも突き詰めればコミュニティづくりに結びついてきます。クラブのメンバーが体育指導委員やスポーツ指導員になり地域のお世話をしたり、行政に代わってスポーツイベントを企画・運営して行くようなことがコミュニティづくりにつながってきます。今まで行政がやってきたことを地域の住民が行うシステムです。また、これをさらに発展させて、村おこし・町おこし運動と合体して運営しているクラブがあり

ます。「どんぐりクラブ屋台村」(広島県北広島町)と「きよねスポーツくらぶ」(岡山県総社市)はこのことによって地域の活性化を図っています。



totoの収益によるスポーツ振興くじの助成を受け建設された文化とスポーツの拠点施設「きよね夢てらす」

おわりに

愛媛大学教育学部は、国立大学では初めて総合型クラブを二〇〇六年四月に設立する予定です。その理念の一つとして県下の総合型クラブづくりのへのサポートを挙げています。総合型クラブが全国各地にできれば、人々は将来に対して安心感を持ち、暮らすことができると思います。

愛媛マンダリンパイレーツ

EHIME MANDARIN PAIRATES

華々しく開幕した四国アイランドリーグ
(愛媛新聞社提供)



日本初の野球独立リーグ・四国アイランドリーグが今年4月29日に華々しく開幕。四国4県にホームをおく4チームが野球王国・四国を舞台に熱戦を繰り広げています。

リーグ運営の成功のキーワードは“地域とのパートナーシップ”。

そこで、わが愛媛の“おらがチーム”愛媛マンダリンパイレーツで活躍する県内出身選手を紹介します。



四国アイランドリーグ公式サイト <http://www.iblj.co.jp>

13 投手 田坂 賢一郎 Kenichiro Tasakai



投 打	左左
身長/体重	178cm/60kg
生年月日	1985年1月31日
経 歴	西条農業→広島ウエルネススポーツ学院
長 所	カーブが持ち味
好きな言葉	努力
今年の目標	チームの勝利、自分の役割を果たす

1 内野手 福西 太志 Futoshi Fukunishi



投 打	右左
身長/体重	172cm/65kg
生年月日	1982年5月11日
経 歴	宇和島東→明大
長 所	シュアなバッティングと機動力
好きな言葉	戦気
今年の目標	打率3割

18 投手 西山 道隆 Michitaka Nishiyama



投 打	右右
身長/体重	182cm/75kg
生年月日	1980年1月9日
経 歴	松山商業→城西→昭和コンクリート
長 所	時速150kmのストレート
好きな言葉	気合い
今年の目標	チームの優勝とプロ入り

15 投手 宇都宮 勝平 Syohei Utsunomiya



投 打	右左
身長/体重	175cm/70kg
生年月日	1982年12月3日
経 歴	宇和→日本文理
長 所	変化球のキレ
好きな言葉	気合い
今年の目標	チームの優勝、勝利への貢献

20 投手 近平 省悟 Syougo Chikahira



投 打	右右
身長/体重	195cm/81kg
生年月日	1981年2月12日
経 歴	宇和島東→近畿→松山フェニックス
長 所	コントロール
好きな言葉	球縫れなく、道陰し
今年の目標	集中

21 投手 前田 真宏 Masahiro Maeda



投 打	右右
身長/体重	175cm/67kg
生年月日	1984年6月13日
経 歴	三瓶→徳山大学中退
長 所	テンボ良く安定感ある投球、牽制球
好きな言葉	努力には夢がある
今年の目標	体力づくり



プレー以外でも楽しめる演出をする選手たち(愛媛新聞社提供)

**開幕から三ヶ月(八月八日現在)。
チーム成績とご自身の成績を振り返って**

福西 投打の両軍がかみ合わず、チームは負けが先行しているの、修正していかなければならないです。個人的には野手の間を抜く鋭い当りでチャンスメイクをし、クリーンアップにつなげることを首脳陣に求められていますので、役割をしっかりと果たしていきたいです。

田坂 自分の役割が満足に果たせてないの、これから自分の仕事をきっちりこなしたいです。

宇都宮 まだまだ自分の成績には満足していません。

西山 勝てる試合を何試合か落としましてチームに悪い影響を与えてしまったのが課題ですが、チームとしても選手の頑張りにより波に乗っていききたいです。

近平 後半戦からのリーグ参加となったので、これから個人成績を上げ、チームの勝利に貢献したいです。

前田 自分の成績については、もう少し勝てる自信がありました、結果が全ての厳しい世界で負け越しているのが満足していません。チームについては、選手の能力がものすごく高いので、これからは勝ち続けると信じたいです。

選手が感じる愛媛県と他県との違い

福西 愛媛のファンの方は、野球をみる目が肥えています。いいプレーしたときは言葉を掛けてくれますが、

逆にミスしたときは厳しい。期待に応えられるようにしなければならぬと思います。

田坂 愛媛は野球熱が一番高いように感じます。

宇都宮 他県より年齢層が幅広く、観客も多く熱心です。

西山 力が入った声援で、自分の力以上のモノが発揮できているように思います。

前田 愛媛では多くのお客さんの中でプレーできマスコミにも取り上げられることが多いので、環境に恵まれていると思います。その分勝たないと...



イベント参加、球場でのお見送りやサイン会などファンの距離は非常に近い

リーグ成功のカギを握るのは地域とのパートナーシップ。地域との交流やイベントに参加することについて

福西 地域のイベントに参加するのはリーグのためにも非常にいいことだと思いますし、社会人として勉強になります。

田坂 ファンの方が優しく、チームを応援してくれているのを実感します。

西山 自分たちが野球をできるのも、地元のみなさんご支援があつてのものだと思うので、感謝の気持ちをプレー以外の場面でも表せればと思っています。

近平 野球とはあまり関係がないですが、地域と交流することで子どもが好きになりました。

前田 野球教室や梅津寺でのイベントの参

加、ピラ配りなどをしました、イベントに参加すると楽しくてしょうがないと思いますし、ぜひ参加したいと思っています。



最後にファンへのメッセージを

福西 リーグナンバー1の打線なので、これからどんどん挽回して最終的には応援してくださるお客さんのためにも優勝します。

田坂 試合に出られるよう頑張りますので、応援しに来て下さい。

宇都宮 いつでも出られるようにフル活動しますので応援よろしくお願いします。

西山 勝てない試合が続いていますが、これから勝っていきますので応援よろしくお願いします。

近平 せっかく球場にきてくれたお客さんががっかりすることのないよう一戦一戦、一生懸命プレーしますので、応援よろしくお願いします。

前田 このアイランドリーグが、まちが話題となり元気になってほしいです。そして人から愛され、喜びを与えられる選手になれるよう頑張りますので、応援よろしくお願いします。



インタビュー翌日、徳島インディゴソックスを3安打に抑え、完封劇を披露した西山投手(愛媛新聞社提供)

（高知県）

四国アイランドリーグを米で応援する

一俵入魂 百勝の会

あなたにもできる一●入魂で四国を元気に



一俵入魂 百勝の会

代表 川村一成



☆腹が減ったら野球はできんぜよ
<http://norige-nogame.com>
 ☆野球はおにぎり（一俵）入魂
 TEL・FAX 0120-89-0225

四国独立リーグ

野球の四国独立リーグができるという。発起人はあの石毛宏典氏。日本で初めての「独立」リーグを四国で、というのは嬉しいじゃないか。若者たちが夢に向かってチャレンジする姿を間近に見られるのも素晴らしい。俺たちも何か応援できないものか。

スポンサーを募集していたが、スポンサーになるだけの金はない。元高校球児で「四万十ドラマ」で活躍している畦地履正くんから、「米で応援できんろうか」の電話あり。そうだ、俺たち百姓は、金

はないが米ならある。

よっしゃ、それでいこう。米を提供しようじゃないか。会の名称は「一俵入魂百勝の会」。

後に、一チーム九十試合なので「百勝」はあり得ないことが判ったがご愛嬌。

百姓スポンサーと全国サポーター

乗りの良いのが高知の県民性、乗りの良い百姓はもちろん、デザイナー、カメラマン、ライター、主婦などと呼ばかけて横謀、横議を重ねた。

四国の農家に呼びかけて米を提供してもらう。目標、千俵。五百俵は選手に食

べてもらい、あとの五百俵は全国の応援してくれる人たちに買ってもらおう。

買ってもらったお金の一部を事務経費とし、残りを独立リーグに寄付する。

米を提供してスポンサー、買ってサポーターだ。

これは面白いシステムだと一同自画自賛。ちなみに米一俵二万円とすると千俵で二千万円。これって立派なスポンサーだぜ。

野球の四国独立リーグが日本初なら、米で応援のこのシステムも日本初。

お米の炊き方教室も開催



地域の夏祭りでグッズを販売する選手たち

石毛氏よろこぶ

今年二月、四国アイランドリーグ石毛代表に提案した。プロの野球組織を米で応援なんて前代未聞、石毛さんの反応やいかに、と我々はもちろん十社にのぼる

一俵入魂のオリジナル手拭いを頭に巻き、応援！
ちなみにテーマカラーは「肥やし色」



マスコミの方々も固唾を呑んでいた。氏いわく、「このリーグは地域密着を目指しています。秋のドラフトに何人かかったかではなく、このリーグが出来ることによって、どれだけ四国が元気になったか、リーグの成否はそれで判断して欲しいと思っています。その意味でも、米で応援してくれるというのはまさに地域密着、本当に有難い。」「私も百姓のせがれ、米の重みはよく分かっています。」

三月には「一俵入魂 百勝の会」の設立総会。代表に選ばれた私は、初仕事にマツケンサンバを踊った。フィニッシュでは、金ピカの着物の裾を腰元にめくって貰うと、そこには「一俵入魂」と書かれた赤ふんどしが。一同唸然、そして少々やけっぱちに拍手喝采。こうして一俵入魂の会は公式にスタートした。

一●入魂

一俵入魂の発想の面白いところは、(分)かりきったことながら「俵」のところにそれぞれの得意分野の漢字一文字入れたら、いくらかでも応用がきき、支援の輪が広がるということ。野菜農家なら一菜入魂、漁師なら一網入魂、ビール会社なら一樽入魂というように。

「あなたにもできる一●入魂」を提案したところ、次々と協力の手が挙がった。宅配業者は格安に米の集配をしてくれることになり「一急入魂」、印刷屋はチラシをタダで印刷してくれて「二刷入魂」、マスコミ各社は積極的に報道して「一報入魂」、カメラマンは「二写入魂」、ライターは「二筆入魂」…。

アイスクリーム屋は一俵入魂米を使って「お米アイス」を新作して「一氷入魂」、不思議な食感が好評。酒蔵からは「一俵入魂酒」づくりの提案をいただいている。いずれも売り上げの一部を当会に寄付してくれることになっている。

こうして高知では、農家だけではなく、大手スポンサーにはなれない中小企業も巻き込んで、まさに地域密着の応援の輪が広がっている。

四国四県で

全国的にも注目されている「一俵入魂」のこの取り組み、残念ながら愛媛に少し動きがあるだけで、まだまだ四国四県に広がっているとはいえない現状。目標の千俵達成には愛媛、香川、徳島からのご支援がどうしても必要です。

高知では六百俵集めることを目標にしている、あと四百俵を三県で集めてほしい。スポンサーになれば一袋(三十kg)につき、一俵入魂オリジナル手拭い・認定ステッカー・無料観戦チケットをお届けします。

せっかく四国に生まれた「独立」リーグ、お米のある人もない人も参加できるこの会で、一緒に踊ってみませんか。



開幕戦では本物の俵を贈呈

大学生が調べた

まちの姿①

えひめ地域づくり研究会議

代表運営委員 若松 進一

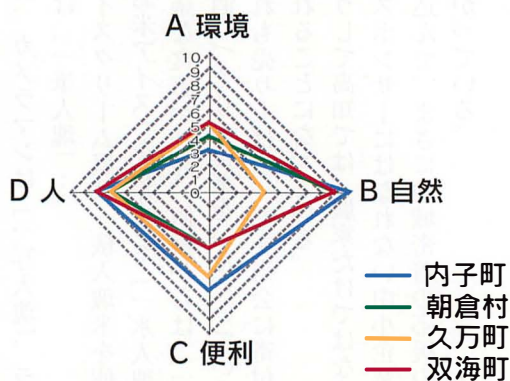
愛媛県内市町村の数は、平成の合併が始まる三年前まで七十市町村といわれていたが、単独で残る松前町、松野町を除き殆どの市町村で再編合併が進む今夏には二十市町となり、愛媛県内から村という自治体は残念がらなくなってしまうた。

昭和の大合併といわれた昭和三十年の市町村合併以来約半世紀、様々な社会の変化に翻弄されながらも住民の知恵と汗と愛郷心によるまちづくりがそれぞれの自治体を中心におこなわれてきたことを思えば、財政難と効果効率という目的のため否応なしに進んだ合併には多少の不満や不安の火種がくすぶってはいるが、後戻りできない行政ルールを選択だけに今後のまちづくりをどうするか、合併のテーマである「参画と共同」をマニフェストとして、新しい時代に対応した行政を新しい感覚を持った若者の参加参画を促しながら推進して欲しいものである。

1 「住みたいまち」調査の結果

	内子町	朝倉村	久万町	双海町
A 環境	3	4	5	5
B 自然	10	9	4	9
C 便利	7	4	6	4
D 人	8	7	7	8

《住みたいまち》



No.	A 環境	B 自然	C 便利	D 人が元気
1	太陽エネルギー→電気	不法投棄	案内板の設置	近所づきあい
2	太陽エネルギー→温水	山林の伐採	自転車での行動	自分の町が好き
3	ゴミ捨て	街路樹	適度な公共施設	挨拶ができる
4	きれいな水	季節感	交通手段の多さ	積極的な行動
5	ゴミ箱の設置	美しい川	バス・電車	公園などの利用
6	リサイクル	公園の整備	バリアフリー状況	観光客への対応
7	エコロジー発電	工事の禁止	空港・港湾の整備	キャッチフレーズ
8	雨水、貯水槽の普及	誇れる場所	コンビニ	イベン
9	車の乗り入れ規制	希少動物	公民館	スポーツチーム
10	公共交通手段	雑木林	道路の整備	商店街の活気



今年のフィールドワークの様子

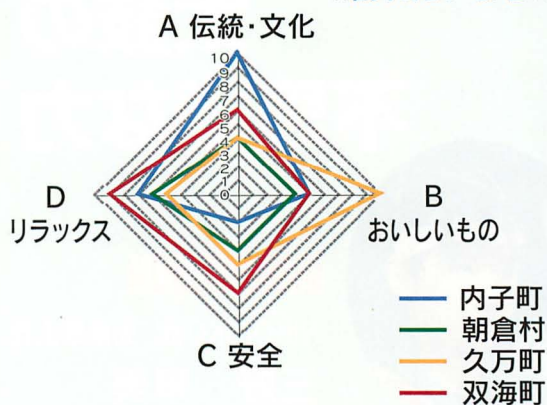
そんな願いもあつて昨年のフィールドワークでのまちづくり調査は朝倉村（現今治市）、久万町（現久万高原町）、内子町、双海町（現伊予市）をそれぞれ目的地に選んだ。朝倉村は古墳と緑、久万町は木、内子町は町並み、双海町は夕日と海をそれぞれテーマに掲げまちづくりを推進してきたパイオニア的存在のまちだし、合併後のこれからも支所化された朝倉村、双海町を除けばその方向は変わらないものと思われるが、大学生が設定したある班（二十人の学生が五人の班を編成）の「住みたいまちの条件」四テーマ各十項目「訪ねたいまちの条件」四テーマ各十項目で調査した結果は次のリーダーチャートのとおりである。

（次号へ続く）

②「訪ねたいまち」調査の結果

	内子町	朝倉村	久万町	双海町
A 伝統・文化	10	4	4	6
B おいしいもの	5	4	10	5
C 安全	2	4	5	7
D リラックス	7	6	5	9

《訪ねたいまち》



No.	A 伝統・文化	B おいしいもの	C 安全	D リラックス
1	独自のイベント	特産品	住民間のコミュニティー	観光名所
2	独自の文化・個性	第一次産業	警察との距離	温かい住民
3	語り部	老舗の店舗	治安	娯楽施設
4	風情	飲食店	夜間の防犯	豊富な自然
5	伝統産業	商店街の賑わい	駆け込み寺	ゴミの散乱
6	歴史的建造物	郷土料理	交通整理や有無	公園の利用
7	町並み	地酒	散歩できるか	ゆるりとした空間
8	老舗の店舗	どこでも食べれる利便性	道路の整備	文化施設
9	リーダーの存在	青空市場	防犯灯	温泉
10	歴史上の人物	お土産屋	公園の賑わい	美しい景観

「これからの人生、可能な限りずっと続けてきたい。」私の太鼓に対する想いです。私が太鼓と出会ったのは小学三年の獅子舞でした。友達に誘われて始めたので、続いたのは一年足らず。それから太鼓の陰も形もなく過ごし、月日が流れて次に太鼓と再開したのは大学一年の時でした。今回も単位取得のために何気なく始めたのですが、今回は自分でも予想してなかったぐらいに、あつという間にのめり込んでいました。

そして社会人になり松山に帰ってきて、大学の時の先輩に紹介してもらい「和太鼓集団 鼓太郎」に入りました。それがきっかけとなり平成十二年に職場の「NIKONIKO 館」（児童館）で小学生対象の「和太鼓クラブ 鼓楽」を結成。

結成当時は子供も私も気持ちバラバラ。教えなければ！しっかり教えなければ、と必死になっていたので低学年と高学年に分けて練習していました。幾度となく大きな声を出し、泣き、笑い、練習場所がなくなつて困ったときもありました。しかし練習や演奏を重ねていくごとに、私にとって子供は子供でなく「仲間」になっていました。それに気がついた日から、「教えるのではなく、伝えていく。子供同士でも伝え合いをしよう」ということを提案しました。しかし子供た

ちは、どう伝えたらいいのかわからないようで、「したくない」「いやだ」「別々に練習がしたい」といろんな思いがあり、それでもなんとか少しずつ形態を変えていこうとしました。

そして四年目の夏。「久万保育園夕涼み会」での出演のとき、年度始めに低学年が増え、さらに新曲を二曲取り入れたことで、子供たちも私もいっになく緊張していました。

さあ、いよいよ本番。一番心配していた曲の演奏が中盤に差し掛かったところで、緊張のあまりリズムを忘れ、曲が止

まりそうになったそのとき、立ち上がる私よりも先に、横で次の出番を待っていた高学年の子供たちがリズムを言い出したのです！お客さんに聞こえる事など気にせず、演奏中の低学年に聞こえるように大きな大きな声で。そして演奏が無事終了したとき私は泣いてしまいました。うれしかったのです。とにかくうれしかったのです。

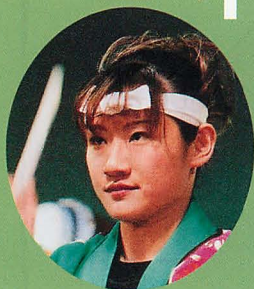
結成から多くの人たちに助けてもらい、励ましてもらい、やっと4年目にして年齢を超え本当に仲間になった気がしたのでした。

そんな子供をみてか、今度は大人の方が立ち上がり、久万スピリッツクラブ（総合型地域スポーツクラブ）で和太鼓を取り入れることになりました。そしてさらに太鼓を通して地域の方とのつながりが広がり、今年の八月に「久万御用木祭り」で鼓太郎・鼓楽・久万スピリッツクラブの三チームが演奏しました。

まだ私の太鼓人生は始まって十年足らず。楽しいことばかりではありませんが、それを簡単に消してしまうほどの不思議な力を持つ太鼓や篠笛の響き。その力を借りて、これからも大切なものをたくさん見つけていこうと思っています。

ひとりでも多くの人に、太鼓を通してたくさんの笑顔が届けられますように！

太鼓の 不思議な力



久万高原町

NIKONIKO 館 児童厚生員

三好 泉美

「珍しい名前やけどどこから来たん？」
「横浜です。」
「ほんとかなあ！なんしに来たん？」
愛媛に来て一年が経ちましたが、未だに初対面の方とは必ず交わすお約束の会話です。

私は、社会福祉を専攻していた学生の頃から、近隣住民の相互扶助の関係や地方での地域福祉活動を学びに愛媛の地を訪れており、人に惚れ、地域に惚れて現在、宇和島市社会福祉協議会にて仕事をさせていただいています。

先に書いた「お約束の会話」についてですが、大半の方が「何でわざわざ：」と聞き、「都会の方が良いのに何で来たの？」と言われているように感じています。けれど、果たして都会は思われている程良いところなのかと疑問に思うのです。確かに、買い物や交通の便など何をするにも便利で、情報も多く、また幅広い年齢層（特に若者）が住んでいるので活気もあります。どれをとっても選択の余地が限りなくあるように感じますが、物が多いことや便利なことは、豊かであるとは言えず、むしろ大切なことを見えづらくしているのではないのでしょうか。人に対して無関心になりがちだったり、無駄な物が多くなってしまうたり、情報が行き交いすぎて届くべきところまで届

愛媛県民一年生 が思うこと

宇和島市

地域づくりコーディネーター育成研修会 受講生

江里 亜紀



かずにいたりなど、「人・物・事」を大事に出来ないことで、本来豊かさがもっている意味を見失っているように思えてならないのです。

しかし、田舎での暮らしが豊かであるかと聞かれたら、難しいかもしれません。経済の悪化による生活への不安や、職を求めている移住による人口（特に若年層）の減少。人々の価値観が多様化し人間関係がますます希薄化しつつあるなど、様々な地域課題が絡み合い、年々地域に元気が無くなっていると感じてよく耳にします。

それでも、都会ではもう薄れつつあるご近所づきあい（向こう三軒両隣の関係）や、年代を超えた人間関係、地域に伝わる歴史や文化、風習、習慣、そして自然など、残されている資源は多く、本来の豊かさにつながるそれらを丹念にみつめていくことで現状を変えていくヒントが見つかるのではないかと思っています。

以前、宇和島は津島の「五つ鹿踊り」を拝見した際に、踊り子をした男の子の親御さんが祭りを見ていた地域の方に、「ここまで育ててくれてありがとう。」と、声をかけられたと聞きました。私の地元には伝統的なお祭りも無いため、その脈々と受け継がれてきた祭り自体に感激すると同時に、子どもを地域の財産としたい、そつと見守れる地域性に感動させられました。田舎暮らしに当たり前のようにあることがとても新鮮で、気付かれずに埋もれてしまっている貴重な人や物・事が可能性として沢山あると感じます。とは言え、ここで暮らしてやつと1年。まだまだ地域探検が足りず、何がどう埋もれているのか分かりませんが、宇和島への愛着心を育みながら、微力ではありますが、地域づくり・まちづくり活動に参加させて頂きたいと思っています。



▲②旧惣川郵便局（西予市野村町）

“MY TOWN” うおっちゃんぐ
歩キ目デス&足ラテス
 第33弾
**「郵便局を
 探そう」**
 まちなみ探偵団
 岡崎直司

日頃、何気なくお世話になる郵便局、何やら最近周辺が騒々しい。例の郵政民営化問題である。それはともかく、この郵便局という建物、ウオッチング的にはかなり楽しい個性的なものが揃っている。県内でのレトロ郵便局を探してみた。

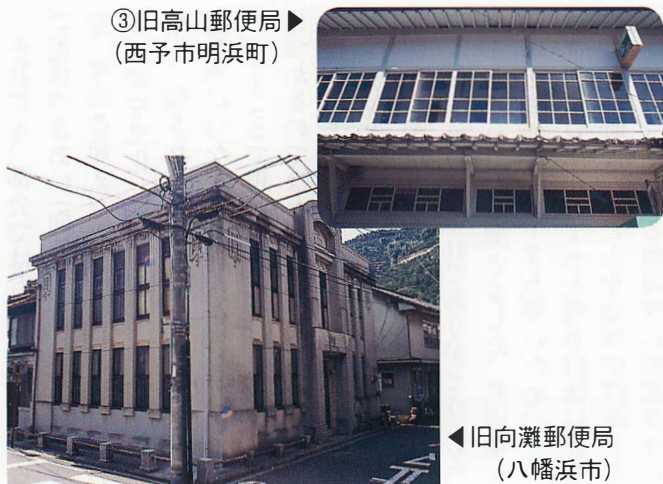
明治四年、前島密によってイギリスに範をとり制度化された郵便という通信手段は、同年、県下でも一早く宇和島と郡中に郵便取扱所が設置され、翌年には石鉄県（旧松山藩以東）に七箇所、神山県（旧大洲藩以南）に十箇所が置かれたとのこと。以後急速に社会に受け入れられていったらしく、現在の名称「郵便局」も明治八年からの呼び名で、全国のどこでもお目にかかれるほど普及していった。

当初は、地域での村長むらおさ的な位置にあった旧庄屋宅などを中心に充てられたように、今でも地方の郵便局のルーツを尋ねると「ハイ、以前は庄屋でした。」という答えが返ることも珍しくはない。



▲①旧旭郵便局

③旧高山郵便局 ▶
（西予市明浜町）



◀旧向灘郵便局
（八幡浜市）

さて、その郵便局が全国で整備されてゆくに従って、そのスタイルは西洋館として建てられていくワケだが、都市部と田舎では多少の差もあって、我々が地方で目にするのは擬洋風建築。業務としてはハイカラな職種だったことがわかる。

では、県内の郵便局ウオッチング、最初はこちらから。①鬼北町（旧広見町）の町なかに残る「旧旭郵便局」。ただし、右端の字が読めないのが、二・三地元で聞いてみたが、残念ながら不明。もう随

分前に閉じてしまったらしく、存在をあまり気にかけるられていないようでナントモ。でも建物としてはかなり面白い。木造の小さなものだが、正面性を表現した装飾は結構整っている。壁面を洗い出しによりデコレーションした、なかなかの左官仕事である。骨材の砂の色を違えることで柱型を浮き立たせていて、本来の外国の建物だとギリシャ神殿のような大理石の柱にするべきを、見た目の西洋で塗り上げている。擬洋風の面目躍如ではないか。内部はどうなっているのだろうか、と気になりながらいつも前を通り過ぎる。

旧清満郵便局 ▶
(宇和島市津島町)



◀ 鴨川郵便局 (松山市)
これのみ現役で、平成になり新築



れてゆくことを願う。

③ 同じく西予市明浜町、「旧高山郵便局」。こちらは残念ながら、先年もう既に壊されて、今は無い。楽しいのは、入り口上部の欄間部分、ガラス窓にあの「二」マークが入れられている。この郵便局の象徴であり誰でもが知ってるマークであるが、意外にルーツはあまり知られていない。郵政省の前身である逓信省の頭を「丁」の字、つまり「T」にかけたのが、その字は、当時、アメリカで料金未

納配達の印に使用されていたため、カタカナの「テ」が図案化されたものだという。現代風に言えば、見事なコーポレートアイデンティティ（CI）で、従って、世の中に有りすぎるほど有るマークの中で、老若男女が知る普遍性ではコレの右に出るものはない。昔の郵便局建築には、そうした意識が読み取れ、様々な装飾が見られて愉快である。

④ 伊予市中山町「旧佐礼谷郵便局」。この小さな建物の屋根瓦をよく見てもいい。棟瓦に三箇所、はつきりと「T」マークが入れている。このようにして見てゆくと、もう使われなくなつて何の建物か分からない場合も多いが、郵便局だけはよく観察すると「ハハーン。」ということがよくある。



▲④旧佐礼谷郵便局 (伊予市中山町)

さて、皆さんの身の周りにある古そうな建物で、思い当たりそうな物件はありませんか。民営化でどうなるんだろう、と気をもみつつも、ここは一先ず身近なレトロ郵便局探しといきまっしょい！

風おこしのちかい

遺すべきもの、伝えるべきこと

えひめ地域づくり研究会議 運営委員
橋詰 飛香

日頃、度あることに若い私を導いてくれている岡崎直司氏のお誘いもあり今年度からえひめ地域づくり研究会議の一員として参加させて頂くことになりました。まだまだ自分に何が出来るとのか模索中ではありますが、その参加動機には二つの理由がありました。ひとつは以前、えひめ地域政策研究センターが主催する地域リーダー育成塾でお世話になり私自身いろいろな気づきを与えていただき、地域のために何かできることがないかと感じていたこと。そしてもう一つは亡き建築家・青木光利氏がえひめ地域づくり研究会議で長年活動をされていたことです。私にとつて青木氏は建築界の大先輩であり、まだ建築のイロハも分からない私に優しく接してくれた方でした。建築に携わりながらその一方で建築的な見地で地域のあり方を見つめ活動されていた愛媛の貴重な人材であったのではないのでしょうか。建築を志す者として人と人との営みに接し、地域と繋がり、地域づくりから建築を考えることは欠くことのできないものです。当時あまりにも私が若かったため、先輩と「地域と建築」について話をする機会に恵まれなかったことは残念なことでしたが、今すこし先輩の残された姿が道しるべとなつて私に大切なことを語りかけてくるような気がしてい

ます。到底大先輩の真似事はできませんし、まだまだ学ぶべき事が多い私ですが建築をホームグラウンドとしてこのえひめ地域づくり研究会議で何かお役にたてればと考えています。

そして今年の研究会議のテーマ「遺すべきもの、伝えるべきこと」。研究会議としても三年連続で掲げる大きな活動テーマとなつているようです。また同様に私自身の建築設計の仕事（ライフワーク）においても、ここ数年このテーマが常につきまといつています。

私の仕事である建築において、とくに日本の職人文化、日本の気候風土にあつた住まいづくりは瀕死の一手手前でもあります。戦後焼け野原のなか早急な住宅供給が余儀なくされ、その結果として簡便でかつ安易な住宅開発がすすめられましたが、それによりそれまで培われてきた先人の知恵や技術は取つて代わられ時代の速い流れにのみこまれました。現在は安易に安値で手に入る輸入材が多量に入つてきて簡便な住宅供給の後押しをしております。一見すると何不自由なく豊かな？時代を謳歌しているようですが、この結果が生んだものは多量消費に多量破壊、環境破壊や地球資源の枯渇、職人文化・技術の衰退など、数え切れません。数千年にわたつて日本の気候風土のもと

で地場産材を活用しながら、自然とともに共存するという自然観の中で培われてきた先人たちの知恵や技術は瀕死の状態です。現状のままでいくと遺すべき人もなく伝えるべき手段もなく、私達若い世代には息途絶えたと痛感しております。数千年にわたって磨き培われた知恵は一度失ってしまえば簡単には取り戻せません。

私自身、住まいづくりを通じて先人達の知恵や技術を紐解いておりますが、一筋縄では答えが導き出せないほど奥が深く、また、全ての事象に無駄がなく理にかなっていて幾度も感動をおぼえました。その度ごとに遺し伝えなければという想いを強くしています。

建築だけに限らずこれら「遺すべきもの、伝えるべきこと」の中身には、現在抱えている多くの事象の問題解決を感じさせるものも多々あるのではないのでしょうか。これからの時代を生きぬく若い世代にとって大きなヒントをもっているように感じてなりません。

えひめ地域づくり研究会のテーマ「遺すべきもの、伝えるべきこと」が、私自身のライフワークとリンクすることも何かのご縁。一段と意義を感じえひめ地域づくり研究会一員として何が出来るのかを考えていきたいと思っております。

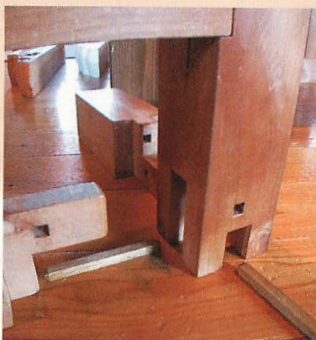
周辺の環境にとけこんだ美しい日本の住まい



自然とともにある日本の住まい



伝統的な木組みの様子



職人技による仕口加工

「誇り100選」のすすめ

研究員 井石 憲雄



CDで紹介されている下関の誇り100選

平成十七年二月末、「えひめ地域づくり研究会議」の運営委員のみなさんと、山口、福岡両県の関門地区を訪ね、「財団法人下関二十一世紀協会」及び「NPO法人門司まちづくり二十一世紀の会」の方々との交流を図った。少々遅くはなったが、この時の見聞を報告したい。

関門海峡を挟んで「二十一世紀」という共通の名称を冠する両団体は、共同で百万人を動員する「海峡花火大会」を成功させ、一躍その名を全国に轟かせた。また、門司まちづくり二十一世紀の会が参画した「門司港レトロ」事業は、

その成果もさることながら、行政と民間の団体が一体となつて大規模プロジェクトを推進したという点で、大変参考になるものであった。さらに、両会には、関門海峡にロープウェイを渡して回遊性を持たせようという壮大な構想もあり、その大胆な発想と行動力には驚かされる。

この他にも、両会の事業には学べるべきものが多かったが、その中で、今回は、下関二十一世紀協会が実施した「下関の誇り100選」を紹介したい。

この事業は、郷土の人、名所、自然、から料理、祭り、出来事に至るまで、およそ郷土に関連したあらゆるものの中から、誇りとなるもの百を選ぶというものである。これまで、名水百選とか景観百選とか、ジャンル別百選は、よく耳にしたが、全てを含んだ百選というのは、あまり記憶にない。

この、なんでもありのごった煮状態のところが良いと思う。地域づくりにおいては、ジャンルに関係なく全てが地域資源となるからである。

この事業は、募集段階から下関の人々の注目を集め、自分の住む地域を見直すきっかけとなつ

た。最終的に、映像化し、CDとして販売されたが、製作した二千枚をほぼ完売したということからも、地域の人々の関心の高さがうかがえる。

地域づくりを突き詰めると、地域の誇りに行き着くように思う。現在、各地で市町村の合併が進み、新しい枠組みでの一体感の醸成に苦慮している地域もあると思うが、ぜひ、このような手法も取り入れていただきたい。地域資源を見つめ直し、地域おこしの種をさぐす一助にもなると思う。多くの住民が興味を持ってくれば、候補の募集の段階で、既に事業の成果があったと言えるだろう。

百選が無理でも、五十選、三十選なら可能かも知れない。大胆な選考を可能にするため、できれば民間主導で行うことをお勧めする。

今後は、市町村の一体化ばかりではなく、道州制を睨んで、四国の一体感を高める必要が出てくるかもしれない。

機会があれば、四国四県のマスコミ等と協力して、「四国の誇り百選」に挑戦したいものだと思っている。



門司港レトロ地区の風景

『乙亥の里』 (西予市野村町)

—歴史と伝統を誇る乙亥大相撲のまちに新たな歴史—



温浴施設「カロト温泉」

百姓百品 健康ひろば



乙亥大相撲で有名な西予市野村町。乙亥会館と特産品市場などで構成された多目的施設「乙亥の里」が今年4月23日にオープン。

乙亥会館は、相撲が盛んな野村町らしく東京両国国技館をモデルにしており、土俵を備えた多目的ホールはレクバレーや剣道、空手などにも使用できます。

そのほかにも、同会館には相撲資料館や温浴施設「カロト温泉」、レストランなどがあります。

また隣接する特産品市場では新鮮な野菜や果物が販売されているほか、手作りアイスの実演販売もしています。

イベント情報：大相撲西予市野村場所 10月29日(土)

《開館時間》 9:00～22:00 (乙亥会館)

《休館日》 毎月第3木曜日

《問い合わせ》 乙亥会館 TEL 0894-72-1006



BOOK INFORMATION



●スポーツ・マネジメント入門

広瀬一郎 著 東洋経済新報社 1800円(税別)

スポーツは今やビジネスの対象ともなり、スポーツ組織などの管理者には経営的感覚が求められています。

ここでは、スポーツ運営・スポーツビジネスに関わる者が知っておきたい最低限の経営・財務・法務の知識が網羅されており、スポーツとビジネスを両立させるために必要なマネジメントの視点を解説しています。

企業や自治体関係者、これからこの分野を志す学生たちにお勧めの一冊です。

お知らせ (財団法人愛媛県市町振興協会)

『オータムジャンボの賞金は、1等・前後賞合わせて2億円』

1等 1億5,000万円×24本 前後賞各 2,500万円

2等 1,000万円×24本 3等 100万円×240本

秋は、
2億円で
と



一番おいしい!
2005年
新市町村振興宝くじ
オータムジャンボ宝くじ
1等・前後賞合わせて
2億円
1枚300円! 売り切れしだい発売終了!
●1等:1億5,000万円/前後賞各2,500万円 ●2等:1,000万円 ●3等:100万円
●発売期間 平成17年9月26日(月)～10月11日(火) ●抽せん日 平成17年10月14日(金)
●当せん金支払開始日 平成17年10月19日(水)

この宝くじの収益金は市町村の明るい街づくりや環境対策、高齢化対策など地域住民の福祉向上のために使われます。

財団法人全国市町村振興協会

9月26日(月)発売

スポーツの楽しみ方には大きく分けて「参加する」「観戦する」といった二つの種類がある。私は大学時代の友人に誘われたのがきっかけでフラグフットボールというスポーツを楽しんでいる。職場の同僚は、スポーツの感動を詠むスポーツ俳句をたしなんでいる。

こういった二つの楽しみ方以外に「応援する」楽しみ方を最近覚えつつある。この楽しみ方の醍醐味はスタジアムに行き、おらがチームの勝利を願う多くの仲間(サポーター)たちと一緒に憂うことで味わうことができる。

スポーツの秋、みなさんはスポーツをどのように楽しめますか?

(鶏野)

内容についてのご意見やまちづくり活動のトピックなどありましたら、お気軽に「舞たうん」編集係までお寄せください。

〒790-0003

松山市三番町四丁目十番地一

愛媛県三番町ビル二階

(財)えひめ地域政策研究センター

まちづくり活動スタッフ

TEL089(932)7750

FAX089(932)7760

発行/平成十七年十月三日

(財)えひめ地域政策

研究センター

印刷/岡田印刷株式会社

☆ <http://www.ecpr.or.jp>

☆ E-mail: info@ecpr.or.jp

本誌は、(財)愛媛県市町振興協会の委託を受けて発行しています。